

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-150	高等学校	外国語	英語表現Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	英Ⅱ・324	Revised POLESTAR English Expression Ⅱ		

1. 編修の基本方針

編修の基本方針として、学習者が**日常的な話題**を通じて**人間性や社会性を育む**ことができ、かつ、**基本的な英語の運用能力**や、英語を用いて**積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度**を育成できる内容・構成となるように留意した。

1. 言語活動の題材は学習者に親しみやすく、かつ、学習者の**生きる力**を育成する内容豊かなものを選んだ。
2. 言語材料に関しては、「英語表現Ⅰ」との連携を考慮して**基本事項の定着**を重視するとともに、その基礎を活用して**英語表現の能力をさらに伸ばす**ことが可能となるように選定した。
3. 「書く」「話す」の**生産的2技能**を中心に育成する目的において、「読む」「聞く」の**受容的2技能**とも有機的に関連させる演習を随所に設け、学習者が**幅広い言語活動**に取り組むことができ、かつ、積極的に授業に参加できるように配慮した。

上述した内容・構成によって、学習者が**多様な知識と教養**を習得して、主体的に**社会の形成に参画し、自他国の伝統・文化を尊重**しつつ、**国際社会の平和と発展に寄与**する態度を養うことが達成できる教科書となるように編修した。

2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し Eメールの書き方 英語の手紙の書き方	・ Eメールや手紙を英語で書く場合の基礎的な英語表現やルールを身に付けさせる。(第1号) ・ 相互の意見や関係性を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(第3号)	前見返し1, 2
英語の基本 一文の基本構造	・ 英語で表現するための基本的な知識を確実に身に付ける。(第1号)	4~7ページ
本課 (PART 1 Lesson 1~ PART 5 Lesson 4)	・ 英語で表現するための基本的かつ幅広い知識を確実に身に付ける。(第1号)	10~25, 28~39, 44~63, 66~85, 90~103, 108~124, 126~146ページ

	<ul style="list-style-type: none"> 自己表現活動を通じて、創造性・自主性を養う。(第2号) 平等意識や公平の観念を養うため、男女・人種などにおいて、偏りが生じないように配慮した。(第3号) 「もったいない」という日本語を世界的に広めた環境活動家のワンガリ・マータイ氏を取り上げた。(第3号) 絶滅の危機に瀕しているトキやヤンバルクイナなどを題材として扱うことを通して、生命を尊ぶ意識を育めるように配慮した。(第4号) 太陽光発電や風力発電を取り上げ、自然エネルギーについて考えさせる機会を設けた。(第4号) 地球温暖化防止のために我々に何ができるのかを考えさせる機会を設けた。(第4号) 日本特有の文化の例(たたみ、福袋)を取り上げ、英語でこれらを表現する機会を設けた。(第5号) 「にぎり寿司の歴史」の話題を取り上げて、我が国の特有の食文化について考えさせる機会を設けた。(第5号) 「お正月」の話題を取り上げて、我が国固有の歴史・習慣について考えさせる機会を設けた。(第5号) 	<p>Pair Work (10ページ側注 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>Express Yourself (12ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>Pre-Listening Chat (13ページ 他 PART 1すべての課)</p> <p>Let's Chat (13ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>Model Dialogs (10ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>77ページ</p> <p>70ページ</p> <p>96ページ</p> <p>132ページ</p> <p>20ページ, 113ページ</p> <p>101ページ</p> <p>112～113ページ</p>
REVIEW 1～5	<ul style="list-style-type: none"> 英語で表現するための基本的かつ幅広い知識を確実に身につける。(第1号) 	26～27, 40～41, 64～65, 86～87, 104～105ページ
Let's Act Out 1～3	<ul style="list-style-type: none"> 相互の意見や関係性を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(第1号) 	42, 88, 106ページ
英語表現 I・II を通した文法のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 英語で表現するための基本的な知識を確実に身に付ける。(第1号) 	147～152ページ
PART 2のトピック別語いリスト	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事柄に関する語いを増やし、さまざまな話題について英語で表現する能力を養う。(第1号) 	153～157ページ
後見返し 全体の構成のチェック 英語表現の最終チェック	<ul style="list-style-type: none"> 英語で表現するための基本的な知識を確実に身に付ける。(第1号) 	後見返し1, 2

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

I. 教科書の特色

A. 文法の総復習から自由英作文、スピーチ/プレゼンテーション/ディスカッション/ディベートまで、着実に力をつけられる5パート構成

- ・PART 1では、これまで学習してきた文法の内容を「使い分け」の観点から総復習する。
- ・PART 2の「トピック別表現を学ぼう」では、さまざまなトピックについて、日常生活において汎用性の高い英語表現を幅広く学ぶ。
- ・PART 3の「パラグラフの構成を学ぼう」では、パラグラフの成り立ちや支持文のパターンを学び、最終的にまとまった分量のパラグラフを書きことができるようになることを目指す。
- ・PART 4の「意見・考えを表現しよう」では、さまざまなテーマに関する英語の文章の書き方の方法論を学び、自分の意見や考えを論理的に書いたり話したりすることができるようになることを目指す。
- ・PART 5の「議論・発表をしよう」では、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの方法論を学び、最後に実際にそれらの活動を行うことで、英語を用いたコミュニケーションにさらなる磨きをかける。

B. 実生活に役立つ発信力（発話力・ライティング力）が身につく

- ・基本重要表現を会話文で提示し、話し言葉にフォーカスしやすくした。
- ・「Input→Practice→Output」と段階を踏むことで、自己表現に無理なくつなげることができる。
- ・プレゼンテーションやスピーチで120語程度の英文を書く【話す】ことを最終目標にした。

C. 英語で表現することが楽しくなる、多種多彩な素材を満載

- ・バリエーションに富んだ活動内容—リスニング、プレゼンテーション、スピーチ、自由英作文など—が可能。
- ・スポーツ、文化、ファッションから食べ物、学校生活に至るまで、生徒の学習意欲を喚起する題材をそろえた。

II. 各課の構成

A. 正課：PART 1～PART 5までの5パート構成。

【PART 1 (Lesson 1～7の全7課)】

1, 2ページ目：各課の文法事項を含んだ対話文や補充例文，解説を通して基本的な文法・語法のルールを再確認し，さまざまな形式の練習問題で定着を図る。

3ページ目：モデル文を参考に，各STEPの指示に従って，自己表現活動を行う。

4ページ目：「リスニング問題＋表現活動」，およびその課の文法事項の最終チェックを行う。

【PART 2 (Lesson 1～10の全10課)】

1, 2ページ目：各課の重要表現を含んだ対話文や補充例文，解説を通してポイントを確認し，ディクテーションを含めたさまざまな形式の練習問題で定着を図る。

3ページ目：モデル文を参考に，各STEPの指示に従って，自己表現活動を行う。

4ページ目：「読解問題＋対話形式のリスニング問題」を軸とした総合的な表現活動。

「読む・聞く・書く・話す」の4技能をフルに使って、その課を締めくくる。

【PART 3 (Lesson 1～7の全7課)】

1ページ目：各課の重要事項を含んだモデル・パラグラフ，解説を通してポイントを理解し，さらにモデル・パラグラフについての確認問題で内容の定着を図る。

2ページ目：さまざまな形式の問題を通して，最終的に実際に自分でパラグラフが書けるようになるための訓練をする。

【PART 4 (Lesson 1～7の全7課)】

このPART は主にグループ・ワークで行い，テーマに沿ったある程度まとまった量の英文を書いたり話したりできるようになることを目指す。

【PART 5 (Lesson 1～4の全4課)】

このPART では「スピーチ」「プレゼンテーション」「ディスカッション」「ディベート」について学ぶ。それぞれの活動がどのようなものを理解した上で，最後に実際に自分たちでそれらをやってみる，という構成になっている。

B. 巻頭要素・補充演習・巻末要素・見返しなど

- ・巻頭に「英語の基本一文の基本構造」のページを設け，「句と節」「前置修飾と後置修飾」を本課に入る前に学習できるようにした。
- ・数課ごとに，それまでの課で学んだ内容を復習できるREVIEWのページを2ページずつ設けた。またREVIEWの最後には，モデル文の型を応用して，自由英作文に取り組めるFOCUS ON THE FORMのコーナーを設けた。
- ・「Let's Act Out」(全3回)では，ケネディー大統領/キング牧師/マララさんのスピーチをもとに，それらを音読し，さらにそのスピーチを参考に自分でも同様のスピーチを作成してクラスで発表することができるようにした。
- ・巻末の「英語表現 I，II を通した文法のまとめ」では，「英語表現 I，II」の教科書で扱った文法事項を，文法項目ごとに例文を挙げることで一覧としてまとめた。また，「PART 2のトピック別語いりリスト」では，PART 2の各トピックに関連した，汎用性の高い語句・表現をリスト化してまとめた。
- ・見返しでは「Eメールの書き方」「英語の手紙の書き方」「全体の構成のチェック」「英語表現の最終チェック」を扱った。

◆教材配当表<B5 変型判/160 ページ/4 色>

PART	Lesson	タイトル
—		英語の基本一文の基本構造 (句と節/前置修飾と後置修飾)
1	1	What are you going to major in at university? 時制を使い分ける
1	2	How many languages can you speak? 助動詞を使い分ける
1	3	It was released by the Beatles in 1970 受動態を効果的に使う
1	4	Do you know the girl talking with Mr. Brown? 分詞を使い分ける
REVIEW 1		Part 1のLesson 1～4までの復習 / FOCUS ON THE FORM 1
1	5	I think he's the greatest innovator of our time 比較表現を使い分ける
1	6	I know a lot of people whose heroes are astronauts 関係詞を使い分ける
1	7	I wish I could live on a tropical island 仮定法を使い分ける
REVIEW 2		Part 1のLesson 5～7までの復習 / FOCUS ON THE FORM 2

—		Let's Act Out 1—John F. Kennedy
2	1	I can talk about human relationships 「家族」「交友関係」「恋愛・結婚」
2	2	I can talk about food and cooking 「食事・料理」「外食・注文」「家事・炊事」
2	3	I can talk about fashion and shopping 「服装」「髪型」「買い物」
2	4	I can talk about work and study 「仕事・面接」「専攻・試験」「入学・卒業」
2	5	I can talk about sports, health and illness 「運動」「健康」「病気」
REVIEW 3		Part 2のLesson 1～5までの復習 / FOCUS ON THE FORM 3
2	6	I can talk about travel plans 「旅行・観光・交通」「休暇・宿泊」
2	7	I can talk about natural disasters and the environment 「自然災害」「環境問題」「自然保護」
2	8	I can talk about language and culture 「言語・民族・文化」「国際社会・異文化理解」
2	9	I can talk about the media and entertainment 「ニュース」「メディア」「エンターテインメント」
2	10	I can talk about history and tradition 「遺産・建築物」「伝統芸能・文化」「歴史」
REVIEW 4		Part 2のLesson 6～10までの復習 / FOCUS ON THE FORM 4
—		Let's Act Out 2—Martin Luther King, Jr.
3	1	The paragraph and its topic sentence パラグラフとその3要素—主題文・支持文・結論文
3	2	Supporting sentences (1)—explanation / definition and classification 説明／定義・分類
3	3	Supporting sentences (2)—illustration and listing 例示・列挙
3	4	Supporting sentences (3)—comparison and contrast 比較・対照
3	5	Supporting sentences (4)—cause and effect 原因・結果
3	6	Supporting sentences (5)—time order 時間の順序
3	7	Writing a paragraph—choosing supporting sentences 支持文のパターンの選択
REVIEW 5		Part 3のLesson 1～7までの復習 / FOCUS ON THE FORM 5
—		Let's Act Out 3—Malala Yousafzai
4	1	I can write about my experiences 自分の体験について書く
4	2	I can explain Japanese traditions and customs 日本の伝統や慣習について書く
4	3	I can write about imaginary situations 想像上の状況について書く
4	4	I can express my opinions in writing 自分の意見を伝える
4	5	I can use comparisons to argue my point 比較して自分の主張を議論する
4	6	I can write a letter with my own message 手紙を書いて自分のメッセージを伝える
4	7	I can use data to write reports データを用いてレポートを書く
5	1	I can deliver a speech スピーチをする
5	2	I can make a presentation プレゼンテーションをする
5	3	I can conduct a discussion ディスカッションをする
5	4	I can take part in a debate ディベートをする
—		英語表現 I, II を通した文法のまとめ
—		Part 2のトピック別 語いリスト
—		見返し [前] Eメールの書き方, 英語の手紙の書き方/全体の構成のチェック, 英語表現の最終チェック

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-150	高等学校	外国語	英語表現Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	英Ⅱ・324	Revised POLESTAR English Expression II		

<p>1. 編修上特に意を用いた点や特色</p> <p>I. 全般的な留意点</p> <p>A. 自然な文脈において表現を学べるように、ターゲットとなる言語材料をModel Dialogs (会話文)中で示した。</p> <p>B. 授業中にコミュニケーション活動の機会が十分取れるように、PART 1, 2の各課1ページ目にペア・ワークを掲載した。3～4ページ目 (Express Yourself, Active Listening, Real-World English) でも、ペア・ワークができる設問を適宜掲載した。</p> <p>C. 学習事項を活用させるために、自己表現活動 (Short Speech, Presentation) やリポートする活動 (Research and Report) を適宜設けた。</p> <p>D. オーセンティックな英語に触れる機会を設けるために、Part 2でReal-World Englishを扱った。</p> <p>E. 英語の論理に合った、まとまった量の自然な英語を書き、話すことができるように、PART 3ではパラグラフ・ライティング、PART 4では自由英作文、そしてPART 5ではスピーチ/プレゼンテーション/ディスカッション/ディベートを扱った。</p> <p>F. 英語による授業を円滑に進められるように、問題指示文等はなるべく英語を使用した。</p> <p>G. 学習内容の定着を図るために、数課ごとに復習問題のページ (REVIEW) を設けた。</p> <p>II. 教科書の構成 ※教科書の概要は「編修趣意書 (教育基本法との対照表)」をご参照ください。</p> <p>A. 正課</p> <p>PART 1 文法を総復習しよう</p> <p>①Model Dialogs: その課で学ぶ文法事項を含む会話文。使用場面・文脈で用例が理解できるように対話形式にした。</p> <p>②Pair Work: Model Dialogsの会話内の斜体字を入れ替えて、自分の表現で会話練習ができるようにした。</p> <p>③Key Points: その課で扱う文法事項に関するコンパクトな解説。</p> <p>④Adding Variations: 補足的な文法事項を含む例文を、その和訳とともに提示。</p> <p>⑤Let's Listen: 対話を聞いて、その対話の要約文を完成させるリスニング問題。スクリプトまたは要約文の中に、その課で学ぶ文法事項が含まれている。</p> <p>⑥Practice: 文法の確認問題。空所補充問題、語句整序問題、和文英訳問題など、バラエティーに富んだ問題で構成されている。</p> <p>⑦Express Yourself: 自己表現活動のためのページ。その課で学んだ文法事項を含む50語</p>

～70語程度のモデル文を参考に、各STEPの指示に従って英文を構成し、スピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。

⑧**Active Listening**:リスニング問題と表現活動を融合したページ。さまざまなテーマの英文を聞いて質問に答え、最後にそのテーマをもとにした自己表現活動にまでつながられる。

PART 2 トピック別表現を学ぼう

①**Model Dialogs**:その課で学ぶトピック表現を含む会話文。使用場面・文脈で用例が理解できるように対話形式とした。

②**Pair Work**:Model Dialogsの会話内の斜体字を入れ替えて、自分の表現で会話練習ができるようになっている。

③**Key Points**:その課で扱うトピック表現に関するコンパクトな解説。

④**Other Useful Expressions**:補足的な表現を含む例文をテーマごとに提示。

⑤**Dictation**:対話を聞いて、その対話文中の空所を埋めるディクテーション問題。スクリプトの中に、その課で学ぶトピック表現が含まれている。

⑥**Practice**:表現の確認問題。写真やイラストの描写問題、空所補充問題、語句整序問題、和文英訳問題など、バラエティーに富んだ問題で構成されている。

⑦**Express Yourself**:自己表現活動のためのページ。その課で学んだトピック表現を含む50語～70語程度のモデル文を参考に、各STEPの指示に従って英文を構成し、スピーチやプレゼンテーションができるようになることを目指す。

⑧**Real-World English**:読解問題と表現活動を融合したページ。さまざまなテーマの英文を読んで質問に答え、最後にそのテーマをもとにした自己表現活動にまでつながられる。

PART 3 パラグラフの構成を学ぼう

①**Model Paragraph**:パラグラフの概念や、その課で学ぶパラグラフの展開パターンを含んだ英文。

②**Key Points**:パラグラフの概念や、その課で学ぶパラグラフの展開パターンについての簡潔な解説。

③**Analyze the Model Paragraph**: Model Paragraphの構成について、より深く理解するための確認問題。

④**Practice**:その課で学んだことを踏まえた練習問題。最後の大問で、実際にパラグラフを書く練習を行う。

PART 4 意見・考えを表現しよう

このパートでは主にグループ・ワークを通して、各レッスンで提示されたテーマに沿って、自分の力でまとめた分量の文章を英語で書いたり話したりできるようになることを目指す。

PART 5 議論・発表をしよう

このPARTでは「スピーチ」「プレゼンテーション」「ディスカッション」「ディベート」

の活動が、それぞれどのようなものを理解した上で、実際にそれらの活動を生徒たちに行わせる。

B. 巻頭要素・補充演習・巻末要素・見返しなど

1. 英語の基本一文の基本構造：

本課に入る前に「句と節」，「前置修飾と後置修飾」について学習できるページ。

2. REVIEW 1～5：

それまでの課で学んだ内容を復習するためのページ。各2ページ構成で、REVIEWの最後には、モデル文の型を応用して自己表現活動をするためのFOCUS ON THE FORMを設けている。

3. Let's Act Out：

ケネディー大統領/キング牧師/マララさんのスピーチをもとに、そのスピーチを音読し、さらにそのスピーチを参考に自分でも同様のスピーチを作成して、クラスで発表するコーナー（全3回）。

4. 英語表現Ⅰ・Ⅱを通じた文法のまとめ：

「英語表現Ⅰ，Ⅱ」の教科書で扱った文法事項を、文法項目ごとに例文付きでまとめた。

5. PART 2のトピック別語いリスト：

PART 2の各トピックに基づき、汎用性の高い語句・表現をレッスンごとにまとめた。

6 見返し「Eメールの書き方」「英語の手紙の書き方」/「全体の構成のチェック」

「英語表現の最終チェック」：

英語でEメールや手紙を書く際の注意事項や、まとまった量の英文を書いた後の自分でのチェックの方法をコンパクトにまとめた。

2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
前見返し Eメールの書き方 英語の手紙の書き方	内容 (1)イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。	前見返し1, 2	—
英語の基本 一文の基本構造	内容 (1) ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。 また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 内容の取扱い (1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを伝える能力の向上を図るよう指導するものとする。	4～7ページ	2
本課 (PART 1 Lesson 1 ～ PART 5 Lesson 4)	内容 (1) ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。 また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。 エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。	内容 (1) ア Pair Work (10ページ 他 PART 1, 2すべての課) Short Speech (12ページ 他 PART 1, 2すべての課) Pre-Listening Chat (13ページ 他 PART 1すべての課) Let's Chat (13, 17ページ 他) イ Express Yourself	77

	<p>(2) ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。</p> <p>ウ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。</p> <p>エ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うこと。</p> <p>内容の取扱い</p> <p>(1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを伝える能力の向上を図るよう指導するものとする。</p> <p>(2) 聞くこと及び読むこととも有機的に関連付けた活動を行うことにより、話すこと及び書くことの指導の効果を高めるよう工夫するものとする。</p> <p>(3) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう考慮するものとする。</p>	<p>(12ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>ウ Research and Chat (31, 35ページ 他)</p> <p>エ PART 5 Lesson 4 (140~146ページ)</p> <p>(2) ア Pair Work (10ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>イ PART 3 Lesson 1~7 (90~103ページ) PART 4 Lesson 1~7 (110~124ページ)</p> <p>ウ PART 5 Lesson 1~4 (126~146ページ)</p> <p>エ PART 5 Lesson 3 (134~139ページ)</p> <p>内容の取扱い (1) Practice (11ページ 他 PART 1~3すべての課) Express Yourself (12ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p> <p>(2) Active Listening (13ページ 他 PART 1すべての課) Dictation (45ページ 他 PART 2すべての課) Real-World English (47ページ 他 PART 2すべての課)</p> <p>(3) Model Dialogs (10ページ 他 PART 1, 2すべての課)</p>	
REVIEW 1~5	<p>内容</p> <p>イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。</p> <p>内容の取扱い</p>	<p>26~27, 40~41, 64~65, 86~87, 104~105ページ</p>	5

	(3) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう考慮するものとする。		
Let's Act Out 1～3	内容 (2) ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。	42, 88, 106ページ	3
後付 英語表現 I・IIを通 した文法のまとめ	内容の取扱い (1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを伝える能力の向上を図るよう指導するものとする。 (3) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう考慮するものとする。	147～152ページ	—
PART 2のトピック 別語いリスト	内容 (1) イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。	153～157ページ	—
後見返し 全体の構成のチェッ ク 英語表現の最終チェ ック	内容 (2) イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。	後見返し1, 2	—
* 本課の配当時間の内訳は以下の通り。 PART 1, 2: 各課 3 時間 PART 3: 各課 1 時間 PART 4: 各課 1 時間 PART 5: 各課 3 時間 (すべての課で考査・発表等の時間も含む)		計	87